



# アイヌタイムズ

## 第 33 号

2005 年 3 月 31 日 (木) アイヌ語ペンクラブ

アイヌタイムズ第 33 号(2005 年 3 月 31 日発行)からアイヌ語抜粋  
著者: 横山裕之

次のプロジェクトに参加して今回のアイヌ語訳となりました

<http://lowlands-l.net/anniversary/colophon.php>

<http://lowlands-l.net/anniversary/aynu.php>

<http://lowlands-l.net/anniversary/aynu-kana.php>

### チャクチャク カムイ オルシペ ミソサザイのお話

(アイヌ イタク [アイヌ語])

(日本語)

ガレージ オンナイ タ、チャクチャク セツ アン。

シネアント タ、チャクチャク ミチ チャクチャク  
ハポ トウラノ、イラマンテ ワ ポウタリ アエ  
ルクス ホブンパ ワ パイエ ヒネ、ネ ポウタリ  
セツ オロ ウン アホツパ ルウエ ネ。

イルカ アン コロ、コロ ミチ セトルン ホシ  
ピ ワ エク アクス、ポウタリ ネブ カ シトマ ノ  
イネ シラン。

"ヘマンタ アン? クコロ シオン、フナ エチ  
コイキ ルウエ アン? ヘマンタ クス エネ エ  
チシトマ ハウエ?" セコロ ハウエアン。

ポウタリ エネ ハウエオカ ヒ: "ホ、クミチ、ポ  
ロ カミアシ コラチ アン ペ エシリ エク シリ  
ネ。ソノ ニウエン ペ ネ ワ ナヌフ アシ  
マブ ネ。ポロ シキヒ マカ ワ ウネヌチシ  
ケ ワ アン ナ。イヨハイ シトマレ!" セコロ  
ハウエオカ。

"オハイネ ウン、ネ ヘマンタ フナク ウン ア  
ラバ?" セコロ コロ ミチ ハウエアン

ミソサザイの巣は車置き場の中にありました。

ある日のこと、親鳥二羽とも、子供たちのた  
めに食べ物を取ってこようと外へ飛び立ち、小  
さな雛鳥だけが巣に残されました。

しばらくして、ミソサザイの父親が巣に戻って  
きました。

「なにがあったんだ?」と父親は聞きました。  
「子供たち、おまへたちに悪いことをしたのは、  
誰なんだ? どうしてそんなに怖がっているん  
だ?」

「ああ、パパ」と子供たちは言いました。「大  
きなおばけみたいなのが、今さっきやってき  
たんだ。すごく獰猛で恐ろしい顔をしてたんだ!  
おおきな眼で僕たちの巣を覗んだんだよ。ぼく  
たち、とつても怖かった!」

「そうか、わかった、そいつはどこに行ったん  
だ?」と父親が言いました。

"トオニ ウン アラパ。" セコロ ポホ ハウエアン。

"エンテレ ワ オカ ヤン、ケセ カンパ クスネ。ネブ カ エチエラナク カ ソモ キ ノ オカヤン。クコロ シオン ネ ヘマンタ コシコニ ワクコイキ クス ネ ナ。" セコロ コロ ミチ ハウエアン コロ、ホプニ ワ アラパ。

チャクチャク ミチ ル シットク オロ パクノ ホプニ ワ アラパ アクス、トアン タ アプカシ ペライオン ネ シリ ネ。

コロカ、ネ チャクチャク リオン ネ ヤッカ シトマ カ ソモ キ。ネ ライオン セトウル カ タラン ヒネ、"ヘマンタ ネ クス クニヒ ウン エエク ワ クポウタリ エシトマレ ルウエ?" セコロ ハウエコイキ ルウエ ネ。

ネ ライオン アナク コシラムイサムテ コロ アプカシ ア アプカシ ア。

ネ チャクチャク ポン コロカ ラメツコロ ペネ クス、ポ ヘネ ユブケノ ハウエコイキ ハウエ エネ アン ヒ: "テオロ ウン エエク クニプ カ ソモ ネ。エエラマン ヤ? スイ エエク トウ アン ヤクン、ユブケ ノ エチコイキ クス ネ ナ! エネ クキ ヒ カ ケトランネ コロカ..." セコロ ハウエアン コロ、オアツチキリ リキンカ コロ、"ネウン ネ ヤッカ スイ エエク ヤクン、クチキリ アニ ナニ エイツケウエ クカイエ クス ネ ナ!" セコロ ハウエアン コロ、ネ チャクチャク セツ オロ ウン ホプニ ワ ホシピ ルウエ ネ。

"エアシリ、クコロ シオン、タネ ピリカ ワ。ピリカノ クヌレ ルウエ ネ クス、スイ エク カ ソモ キ ナンコロ。" セコロ ハウエアン。タネ ピリカ。

「ええと、あっちの方へ行った」と子供たちが答えました。

「待っておいで」と父親が言いました。「そいつを追いかけて行ってやる。心配しなくていいんだよ、子供たち、お父さんがそいつをつかまえてやるから」父親はそう言って、飛び立って行きました。

親鳥が道の曲がり角まで来てみると、そこを歩いているのはライオンでした。

ミソサザイはライオンを怖れませんでした。ライオンの背中に舞い降りて、「何の用があつてうちに来て子供たちを怖がらせたりしたんだ?!」とライオンを叱り始めました。

ライオンは知らぬ顔をして歩き続けました。

そこでこの小さな鼻っ柱の強い鳥は、ライオンを一層激しくなじりました。「おまえはこんなところに来る理由はないんだ、わかったか! もし、またやって来るようなことがあつたら、目にものを見せてやる! こんなことは本当はしたくないんだが」と言いながら、親鳥は片脚を挙げました。「それでも、またやって来たら、この脚であつという間におまえの背中をへし折ってやる!」そう言って親鳥は巣に飛んで帰りました。

「さあさあ、子供たち、もう大丈夫だよ。あいつにはよく言い聞かせてやったからね。もう戻ってくることはないよ。」と父親は言いました。

## 出典

<http://lowlands-l.net/anniversary/colophon.php>

このページには、次のようにあります。

Main source: Peter Martens, "Probleme der Rechtschreibung von niederdeutschen Vokalen und Diphthongen," pp. 101-189 in Heinrich Kahl, ed., 75 Jahre Fehrs-Gilde (1916-1991):

Jubiläumsschrift der Fehrs-Gilde, Hamburg (Germany): 1991.

### De Tuunkruper (The Wren)

a Low Saxon (Low German) folktale in various orthographies with translations into other dialects and languages

### Japanese Translation

by Reinhard F. Hahn, Seattle, USA, and Tomoko Kurata Gautier (蔵田智子), Chatillon, France

<http://lowlands-l.net/anniversary/japanese.php>

**Ainu Translation (Japan)**

by YOKOYAMA Hiroyuki, Hokkaido, Japan

**Esperanto Translation (Japan)**

by YOKOYAMA Hiroyuki, Hokkaido, Japan, and HOŠIDA Acusi, Hokkaido, Japan

アイヌタイムズをご購入していただける方がお知り合いでいらっしゃいましたら、お声をかけていただけると大変うれしく思います。

購読連絡先: 〒055-0101 北海道平取町二風谷 80-25 萱野志朗(宛)

購読料: 1500 円 (4 号ごと／アイヌ語版のみ)

2300 円 (4 号ごと／アイヌ語版と日本語版)

読者からの投稿募集:

(連絡先): 〒047-0033

浜田隆史(宛)

北海道小樽市富岡 1-32-136

電子メール: [otarunay@yahoo.co.jp](mailto:otarunay@yahoo.co.jp)

ウェブページ: <https://otarunay.at-ninja.jp/taimuzu.html>

注)アイヌタイムズの著作権は、アイヌ語ペンクラブにあります。

注)1. 赤字は、アイヌ語です。

2. 赤字のイタリック文字は、主に日本語由来のアイヌ語外来語です。